

新 不 動 心

平成 21 年 3 月
第 14 号
発行 普照院

今年初めての寺報となります。今冬は寒暖の差が例年以上に激しい毎日ではございますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年未から開始されました寺院復興事業の経過報告も、この限られた紙面上ではご説明が難しい為、普照院ホームページ <http://fusyoin.com/>にて随時更新報告させていただいております。是非一度ご覧いただければと思います。

さて一昨年(2010年)の3月号でお彼岸の話をしていただいたので、今年の春のお話は何を題材にしようかなと考えておりましたところ、あるお檀家さんにこんなことを尋ねられましたので、少しこの紙面でご説明させていただこうかなと思いました。

「住職さん、最近よく市バスの車体の後ろの広告に『直葬 15 万円から』と書いてある看板が付いていますが、あれはどういう葬儀なのですか。えらいまた、安いですな。」

成程、最近僧侶の中では常識となりつつあるのですが、あの看板だけを見せられる皆さんには、もっと詳しい説明が必要だと思われます。というよりも、あのような広告を市営の公共交通機関が付けてもいいものか、と少し腹が立つのですが。



簡単にではありますがご説明させていただきます。普通ですと病院で亡くなった方があった場合、まずはご遺体をご自宅や葬儀会館等にお運びすることになりますが、直葬(ちよくそう)の場合は、そのまま斎場(お焼き場)へ直行し葬儀をせず茶毘に付す、というお別れのことで。ですから葬儀でも何でもないのであって、まさに『直送』と書くのが正しいのです。

そのお檀家さんにもお話したのですが、そのような会社は、**広告の中で世間を驚かせる価格を提示し**、それに興味をもった方々が電話をしてきてから、本来の直葬の仕組みを説明します。ほとんどの場合「そのような葬儀で親族を送ることは出来ない。」となりますが、動揺しているご家族は最初に連絡した葬儀会社とお話するしかなく、結局のところ他の普通の会社と同じ形の葬儀・費用となるのです。このように、世間一般の方々が葬儀について詳しいはずがない所に目を付けたのが、こういった類の宣伝なのです。

ならば、テレビコマーシャルでよく見る全国展開の葬儀会館などに頼むのが良いのかと言われると、近頃の葬儀事情においては法外な金額が請求されるケースがあまりにも多いと私は思います。お葬式にある程度の費用がかかるのは止むを得ないことではあります。が、常識的な金額というものがある訳ですから、いざと言う時の為にも**お元気な時に**そういった仏事に関する事を、是非私にでも相談していただければと思います。

～彼岸中日（20日）舞子墓園のお参りの方へ～ 【駐車規制の件】

数年前の道路交通法改正による駐車禁止地区の規制が厳しくなってからというもの、墓園内の駐車方法に対しても、近隣住民の苦情により警察が出動することが多くなってまいりました。本来墓園の存在を理解した上でお住まいになった方々のはずですが、近頃の個人主義の世相においては、このような理不尽も止む終えないことなのかもしれません。

お参りの皆様には大変ご足労ではありますが、普照院墓園から数十メートル先に臨時駐車場が用意してあるそうです。寺院側からも、臨時駐車場への案内の充実及び新規駐車場の設置等を今後も要望し続けていく所存でございますので、お参りの際の車のトラブルに関してはお気を付けいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ先：墓園管理センター（鶴越墓園管理事務所） 078 - 621 - 5667

【平成 21 年の回忌法要年表】

	今年(平成 21 年)		
1 周忌	2008 年 (平成 20 年) 寂	23 回忌	1987 年 (昭和 62 年) 寂
3 回忌	2007 年 (平成 19 年) 寂	25 回忌	1985 年 (昭和 60 年) 寂
7 回忌	2003 年 (平成 15 年) 寂	27 回忌	1983 年 (昭和 58 年) 寂
13 回忌	1997 年 (平成 9 年) 寂	33 回忌	1977 年 (昭和 52 年) 寂
17 回忌	1993 年 (平成 5 年) 寂	37 回忌	1973 年 (昭和 48 年) 寂
		50 回忌	1960 年 (昭和 35 年) 寂

*23・27・37 回忌に関してはご連絡しておりませんが、法要をご希望の方はご連絡下さい。

*法要の日程は先着順となっております。お寺からの連絡の前に、お電話いただいても構いません。

***33 回忌**の法要は『弔い上げ』とも言っており大変重要な法事ですので、是非お勤め下さい。

〔編集後記〕

私は、NHK 大河ドラマが大好きです。にもかかわらず、昨年日本中で話題になった『篤姫』は見ておりません。というのも私なりにこだわりがございまして、「戦国時代の大河しか見ない」というものを徹底していたからです...しかしかなりの評判でございましたので、ある方に年末に放映してありました総集編のビデオをお借りし見てみました。主演の女優さんの期待以上の名演技を見て、本当に見なかったことを後悔しました。今年の大河は『天地人』、もちろん毎週楽しみにしております。

さて、その『篤姫』の中でちょっと感動した言葉がございました。篤姫が江戸城を明治政府に明け渡した後、だんだん身近な人間が亡くなっていくことを嘆いていると、幼馴染の親友が彼女にこう語りかけたのです。

『人は居なくなるのではなく、また会う時の楽しみの為に、ひと時離れ離れになるだけです。』皆さんの愛しい方も、極楽浄土で必ず待って下さっています。ですからそれまでの間は、一生懸命この現世で功德を積み、また会う時にその方に喜んでいただけるような生活を、日々送っていただければと思います。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

652-0853 神戸市兵庫区今出在家町 4 1 29 078 671 1787

ホームページ：<http://fusyoin.com/>